



サンビオティック農業で大豊作！

かぼちゃ・ズッキーニ栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
3月	育苗期	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合は培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和し、2週間程度おくと、良くなじみます。
		(健苗育成) 菌力アップ コーソゴールド (高温・乾燥対策) イーオス タスケルプ！	200倍希釈 500倍希釈 300～500倍希釈 2000倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	発芽後やセルトレー育苗の場合は菌力アップは500倍希釈、本葉展開後は300倍希釈、ポットへ鉢上げ後は100～200倍希釈で灌水します。培土に元肥が入っていない場合や、肥料が足りない場合は、市販のNPK液肥を混用します。 (自身で接ぎ木や挿し木する場合は、切断面に菌力アップが掛からないように注意し、活着後からご使用ください。) 夏季や乾燥しがちな時期の育苗や、病害対策の場合、または徒長気味の時はイーオスとタスケルプ！を使用します。菌力アップとは混用しません。苗立枯病、つる枯病等の糸状菌病害の対策では、さらに本気Ca(マジカル)2000倍希釈を加用します。
		コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (7～10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca(マジカル)2000倍を加用します。
3月	本圃準備 (元肥)	五穀堆肥 有機百倍 鈴成	50袋 5袋 5袋 50袋 7袋 7袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pHを6.5程度に調整するため、石灰、苦土などを施用しておきます。苦土入りのカキ殻石灰などがお勧めです。 その後、1トン程度パーク堆肥・牛糞堆肥などの堆肥を施用します。五穀堆肥の場合は50袋です。豚糞、鶏糞の場合は、500kg以下とします。堆肥施用後、菌力アップ5Lを希釈して散布し、耕耘・混和し、1か月置きます。 <u>薬剤土壌消毒や太陽熱消毒、還元消毒をした後は微生物が減っています。消毒後に必ず菌力アップ5～10リットルを灌水します。</u> 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。地力に応じて、元肥は抑え気味とし、つるボケを防止します。
4月	定植期～ 初期生育	菌力アップ コーソゴールド 本気Ca	5リットル(200倍) 2kg(500倍) 1リットル(1000倍)	5～7日おきに 灌水(4回以上)	定植直後は活着促進のため、株元灌水で菌力アップ200倍希釈(300～500cc/株)を1日おきに施用すると良い。 活着後は、初期生育のため左の通り。希釈水量は1トン程度、十分にしみわたる量を施用する。(手灌水する場合は、かっこ書きの倍数で希釈する。) 農薬散布時には、コーソゴールド500倍、純正木酢液1000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良いです。 草生栽培では、畝間(通路)部分に定植前または直後に、マルチムギやエンバクなどの種をまき、混和後転圧しておくことで雑草予防になると同時に、敷きわらの手間が省け、また疫病やうどんこ病の抵抗性も増します。
4～5月	受粉 着果促進	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布	低温や日照不足時の着花促進には、コーソゴールドと海王を葉面散布します。受粉予定日の2～3日前に行くと、効果的です。
5月	着果期～	(追肥) 有機百倍 鈴成 ケイ酸カリ	1袋/回 1袋/回 1袋(20kg)/回	着果後1週間頃 (1番果、2番果、 3番果の着果後 にそれぞれ追肥)	かぼちゃは、生育後半まで樹勢を落とさないことが、収量アップと、うどんこ病対策となります。 ケイ酸カリは、ケイ酸がうどんこ病の抵抗性を上げ、カリがデンプンの蓄積を促進するため、収量が上がります。

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
6月	肥大期	(収量アップ) 特濃糖力アップ コーソゴールド	5kg 2~3kg	7日おきに 灌水(継続) (1~2トンの水で 希釈)	かぼちゃは、元肥を抑えつつ、着果後から樹勢を落とさない管理が重要です。特濃糖力アップは収量アップ、なり疲れ防止で、コーソゴールドは、2番果、3番果の着花促進、食味・品質向上、病害予防となります。 灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整します。特に乾燥したときは、灌水すると良いでしょう。(灌水チューブを敷設していない場合は、動噴の先を外して、ホースでどンドン散水するように灌水します。) なお、収穫10日前からは特濃糖力アップは省略し、コーソゴールドのみにしたほうが、果実品質や貯蔵性が良いです。
病害虫 発生時 (随時)	フザリウム、疫病、べと病、センチュウなど	菌力アップ 純正木酢液 本気Ca	10リットル 1000倍希釈 1000倍希釈	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応します。 適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ・純正木酢液、本気Caで病害の蔓延・拡大のリスクに対応します。 ネコブセンチュウの場合は、純正木酢液を、糖力アップ5リットルに置き換えて施用します。 3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続します。
	葉の病虫害の対応(うどん粉等)	純正木酢液 本格にがり、または イーオス	500倍希釈 500倍希釈 (水量150リットル)	3日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。にがり、木酢は細胞壁や繊維質を強化し、耐病性を高めます。 純正木酢液5倍液に、ケイ酸カリ(粉末)を木酢液の1/10量混ぜ、一晚浸漬したのち、その上澄み液を100倍希釈にして使用すると、なお良いです。 (例)水4L+木酢1L+ケイカリ100g→上澄み液を100倍希釈

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。
 ※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。
 ※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。